

男女共同参画推進委員会 (JES We Can) 便り

2022 年度 JES We Can 支部活動の報告

◎：支部代表、○：報告者、(新)：新委員
支部代表以下は五十音順

[北海道支部 第 22 回北海道支部学術集会]

開催日：2022 年 10 月 16 日(日)

会 場：ハイブリッド開催(現地+Live 配信)

会 長：三好 秀明(北海道大学大学院医学院・医学研究院 免疫・代謝内科学教室)

企 画：・2022 年度 JES We Can 北海道支部賞 受賞講演

受賞者：亀田 玲奈(北海道大学大学院医学研究院 免疫・代謝内科学教室)

・女性医師専門医育成・再教育プロジェクト “JES We Can” 企画セミナー

タイトル：海外・国内留学で広がる医師のキャリアパス

座長：中村 明枝(北海道大学病院 小児科)

登壇者：森川 俊太郎(北海道大学病院 小児科)

湯野 暁子(勤医協中央病院 糖尿病内分泌内科)

2018 年より、北海道の内分泌領域における学問と医療の発展に寄与された女性医師を、学術論文をもとに表彰する JES We Can 北海道支部賞を設けております。今年度は選考の上、亀田玲奈先生が受賞され、受賞講演も素晴らしいものでした。亀田先生は、日常の診療において生じる疑問をもとに臨床研究に意欲的に取り組んでおり、SGLT2 阻害薬を使用した 2 型糖尿病患者の血圧変動に関する論文をご発表されました。この受賞論文において、SGLT2 阻害薬が臓器保護に与える効果を解明する上で、大きな貢献をされました。今後は、北海道の女性医師にとって指導的な存在となってくださることを期待し、応援しています。

このほかに今回の地方会では、「海外・国内留学で広がる医師のキャリアパス」と題し、医師の留学に関し、「留学の動機」、「留学までの準備」、「得られた経験」、「家庭との両立や家族の協力」などについて、米国 Washington 大学に海外留学された森川先生と、京都医療センターに国内留学された湯野先生にご講演をいただきました。お二方とも、多くの写真を用い、ご自身の留学経験について、時折ユーモアを交え魅力的にお話いただきました。森川先生によるこれから留学を目指す医師や送り出す医局への提言は、今後留学に関わる多くの方々にとってとても良い参考になったと思います。また、湯野先生による留学に至るまでの経緯や帰任した後の展開などについてのお話は、子育て等と両立しながら専門性も高めたいと願う全ての医療者の心に刺さったのではないかと思います。質疑応答では、医師の柔軟なキャリア形成を可能とするための方策や考え方等が議論されました。本企画をプログラムに組み入れて下さった会長の三好秀明先生に深謝申し上げます。



委員氏名：◎○宮 愛香、中村明枝、(新)別所瞭一

【東北支部 第42回東北支部学術集会】

開催日：2022年4月30日(土)

開催方式：WEB開催

会長：鈴木 貴先生(東北大学 大学院医学系研究科・医学部 医科学専攻 病理病態学講座 病理診断学分野 教授)

企画：JES We Can 企画講演

演題名：「肥満症・メタボリックシンドロームの効果的な治療戦略－NHO 肥満症多施設共同研究とメタボ専門外来のチーム医療－」

演者：浅原 哲子先生(国立病院機構京都医療センター 臨床研究センター 内分泌代謝高血圧研究部 部長、名古屋大学 環境医学研究所 メタボ栄養科学研究部門 特任教授)

座長：羽田 幸里香(山形大学 第3内科)

東北支部 第42回東北支部学術集会は、COVID-19感染症の影響で、完全WEB開催となりました。今年度は、浅原哲子先生に肥満症治療についてご講演いただきました。

文部科学省『学校保健統計調査』によると、東北6県すべてが、6歳、12歳、15歳の肥満傾向児出現率上位10位以内に例年ランクインしており、東北地方では、「小児肥満」が重要課題となっています。小児肥満児の多くが、成人の肥満へと移行しており、肥満患者を多く診る機会がありますが、治療に難渋する例が多いのが現状です。今回の浅原先生のご講演では、メタボ専門外来、チーム医療についてご紹介いただき、NHO 肥満症多施設共同研究の結果をお示しいただきました。患者のやる気を引き出すチーム医療の一端が垣間見られ、日常臨床に応用できるご講演内容でありました。

会長である鈴木 貴先生には、本企画に関して、多大なるサポートを賜りました。この場を借りて、深謝申し上げます。

委員氏名：◎○桜井華奈子、木下敬子、高橋郁子、羽田幸里香、緑川早苗

【関東甲信越支部 第23回関東甲信越支部学術集会】

開催日：2022年9月10日(土) 11:20～12:20

会場：現地開催

会長：方波見 卓行先生(聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 代謝・内分泌内科 教授)

●企画名1：JES We Can 企画

座長：福田 いずみ先生(日本医科大学付属病院 糖尿病・内分泌代謝内科)

田辺 晶代先生(国立国際医療研究センター病院 糖尿病内分泌代謝科)

中川 朋子先生(聖マリアンナ医科大学 代謝・内分泌内科)

講演タイトル・演者(発表者)：

- 1) 先天性内分泌疾患の遺伝子解析：病的意義不明バリエーションの解釈を中心に
中尾 佳奈子先生(国立成育医療研究センター分子内分泌研究部)
- 2) Gender equality の時代に内分泌・代謝医として今出来ることを続けていく
松葉 怜先生(松葉医院 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 代謝・内分泌内科)
- 3) 「Possibility -自分が出来ることを探す-」
小谷 紀子先生(国立国際医療研究センター病院 糖尿病内分泌代謝科)

●企画名2：JES We Can 優秀演題賞選考

審査員：(自施設の候補者の採点はせず)

大会長：方波見 卓行先生(聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 代謝・内分泌内科)

次期大会長：田辺 晶代先生(国立国際医療研究センター病院 糖尿病内分泌代謝科)

JES We Can 委員：山口 実菜先生(平塚共済病院 内分泌代謝科)

深見 真紀先生(国立成育医療研究センター 分子内分泌研究部)

鈴木 佐和子先生(千葉大学大学院 糖尿病・代謝・内分泌内科)

受賞者：最優秀賞 木下 綾先生(伊藤病院)

橋本病急性増悪の手術症例の検討

優秀賞 澤田 実佳先生(東京大学医学部附属病院 病態栄養治療部)

コロナ禍の体重・体脂肪増加および骨格筋減少は 血糖増悪のリスク因子である
～後ろ向き縦断研究

優秀賞 富野 祐希先生(武蔵野赤十字病院 内分泌代謝科)

リンパ腫の化学療法中に後天性免疫不全症候群が判明し、敗血症性ショックを契機に副腎不全と診断した一例

- JES We Can 企画：今回の第 23 回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会では、JES We Can 委員でもある方波見大会長が、大変素晴らしい JES We Can 企画をご立案下さいました。若手女性医師・研究者を代表して中尾先生、小谷先生の素晴らしいご研究発表、若手男性医師を代表して松葉先生のご活躍のご発表は、いずれも素晴らしい内容で胸を打つものでした。
- JES We Can 優秀演題賞選考：今回のエントリー演題数は 36 演題と過去最多で、例年の 2 倍近くに迫る数でした。JES We Can 優秀演題賞の認知の浸透と、若手女性医師のモチベーション向上の顕れと存じます。レベルの高い選考の中、見事、最優秀演題賞に輝かれた木下 綾先生、優秀演題賞の澤田実佳先生、富野祐希先生、おめでとうございます。今回は選外であったご発表もいずれもレベルが高いものでしたので、是非、来年以降もトライして頂きたいと存じます。

当賞がスタートした当時は、会長賞受賞者の女性医師比率が低かった状況もあり、当賞は 40 歳以下の女性医師を対象と制定されております。しかし、ここ最近の若手女性医師の活躍は目覚ましく、第 23 回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会会長賞受賞者も女性の方が多いう状況となりました。JES We Can 自体も当初は女性医師専門医育成・再教育委員会から発足しましたが、その後の啓発活動、さまざまな制度や支援の充実から、若手においての専門医取得率の性差も解消しており、現在の活動目標は男女共同参画、さらにはダイバーシティの推進です。よって、今後、JES We Can 優秀演題賞のエントリー対象に関しても、(大変素晴らしい進展として!)性別を除く等の、再検討も可能な時期に来ているのではないかと、報告しながら感じております。

- JES We Can 委員・協力委員：以下、新委員の方々をご紹介します。昨年 4 月からは、当学会理事である榎田紀子先生(東京大学 腎臓・内分泌内科)に協力委員としてのお力添えを頂けることになり、パワーアップしました。また、昨年 9 月の関東甲信越支部学術集会幹事会での JES We Can 活動報告にて、JES We Can 委員・協力委員がご不在の都道府県の幹事の先生方へ、協力委員ご推薦のお願いを申し上げます。早速、新潟大学 血液・内分泌・代謝内科 曾根博仁教授から山田貴穂先生、岩永みどり先生を、信州大学 第四内科 駒津光久教授から大岩亜子先生、佐藤亜位先生をご推薦頂きました。協力委員に関しては人数規定がなく、今後も自薦他薦共に受け付けております。協力委員として JES We Can 活動に参加ご希望の方は、是非、学会事務局へご一報下さい。

このところ、より若手の先生方にも、協力委員として積極的に JES We Can 企画や運営にご参加頂いております。その成果として、委員と協力委員を相互に入れ替えることも可能な時期になったと実感しております。今後、JES We Can 活動が、様々なダイバーシティ推進に向けて、さらなる発展を遂げて行くことを祈ります。

2023 年 春の光あふれる季節に

委員氏名：◎○片井みゆき、荒田尚子、井下尚子、岩部美紀、小澤直子、方波見卓行、北中幸子、鈴木真理、田島敏弘、田辺晶代、中嶋康代、深見真紀、福田いずみ、藤田 恵、堀川玲子、山口実菜 協力委員：(新)岩永みどり、(新)大岩亜子、(新)佐藤亜位、鈴木佐和子、中川朋子、(新)榎田紀子、(新)山田貴穂

[北陸支部 第21回北陸支部学術集会]

開催日：2022年11月5日(土)

会場：福井県済生会病院

会長：金原 秀雄(福井県済生会病院 糖尿病内分泌内科)

企画：日本内分泌学会 北陸女性医師企画「臨床医のための内分泌症例セミナー」

講演タイトル：ヒト肝脂肪化におよぼすAPOC3変異と脂質摂取間の相互作用

最優秀受賞者：山本 怜奈(金沢大学大学院医学研究科 内分泌・代謝内科学)

表彰式進行：竹下 有美枝(金沢大学 内分泌・代謝内科学)

受賞講演座長：中川 淳(金沢医科大学 糖尿病・内分泌内科学)、

朴木 久恵(富山大学 第一内科)

2014年からJES We Can企画として「一般臨床医のための内分泌症例セミナー」を開催しています。これは、臨床に携わる女性医師が、過去1年間に発表した学会報告のうちの1題をもって応募、オープン参加の聴衆を審査員とした事前審査会にて最優秀賞を決定、受賞者には支部学術集会で表彰・副賞を贈呈するとともに、臨床的な啓発を意識した講演を行っていただくものです。本年度は例年と同じく症例報告に加えて、2演題臨床研究発表がありました。最優秀受賞者に選ばれた山本怜奈先生は、金沢大学の地域枠第1期生として、能登地区をはじめとする僻地医療に従事しています。育児と一般病院で救急・当直を行いながら、空いた時間を見つけ、能登地区のコホート研究をまとめたものが表彰されました。この結果を基に、大学院に入学し、短時間で論文アクセプトまでこぎつけました。このように研究マインドを持つ若手女性医師が誕生していることも非常に嬉しい限りです。引き続き、この北陸支部女性医師企画が、内分泌医のモチベーションを維持・向上しながらキャリア形成を図り、医師としての社会的役割を果たす一因になることを願っています。



第21回日本内分泌学会北陸支部学術集会女性医師企画 『〜臨床医のための内分泌症例セミナー〜』特別賞 事前審査会	
13:30~	開催宣言: 第21回日本内分泌学会北陸支部学術集会長 福井県済生会病院内科 金原秀雄
	座長: 金沢医科大学 糖尿病内分泌内科 中川 淳
13:40~15:00	
1	臨床的排膿症性下垂体腫瘍として再増大を繰り返す21年間の治療経過のあと、先端巨大症の検査所見をみたシフトスタッフ部隊の有効性が認められた多ホルモンの1例性腺腫瘍の1例 金沢医科大学 糖尿病内分泌内科 生物病棟
2	腸がん精査中の電解質異常を契機に診断された男性性ACTH産出腫瘍の1例 富山大学附属病院 第一内科 上坪未樹
3	悪性症候群と糖尿病を合併した褐色細胞腫の1例 福井大学医学部 内分泌代謝内科 藤井美紀
4	COVID-19におけるhA1c測定的重要性 国立病院機構金沢医療センター 内科 福高彩夏
	10分休憩
15:10~16:10	
5	たこつばん病を合併した糖尿病性トアシンドロームの1例 福生産高岡病院 糖尿病 内分泌代謝内科 船地尚希
6	2型糖尿病でインスリン治療中に糖尿病ケトアシドーシスで発症した急性冠症性糖尿病の1例 富山赤十字病院 内科 丸山真里菜
7	ヒト肝脂肪化におよぼすAPOC3変異と脂質摂取間の相互作用 金沢大学大学院医学研究科 内分泌代謝内科学 山本怜奈
16:20~	優秀演題選考および発表 閉会の挨拶



委員氏名：◎○竹下有美枝、中川 淳、藤井寿美枝、朴木久恵

[東海支部 第22回東海支部学術集会]

開催日：2022年10月8日(土)

会場：アクトシティ浜松 コンgressセンター 41会場

会長：佐々木 茂和先生(浜松医科大学内科第二講座・内分泌代謝内科)

企画：「JES We Can Tokai 企画セッション」

講演タイトル：まれな病気から学ぶステロイド代謝

演者：藤澤 泰子先生(浜松医科大学 小児科学講座)

座長：山下 美保(浜松医科大学 国際化推進センター・内分泌代謝内科)

2022年度の東海支部学術集会は佐々木会長のご意向により、感染防止対策を講じた上での現地開催となりました。当支部では支部学術集会において1セッションの企画立案を担当しており、今回は小児内分泌分野において、研究・臨床ともにご活躍の藤澤泰子先生にご講演いただきました。トランジションの観点から、重要ながら支部集会では聞く機会の少ない小児分野について、より臨床に近い内容でのご講演をお願いいたしました。

ご講演内容は、抗酸化酵素 NNT 異常による ACTH 不応症、小児副腎皮質がん、POR 異常症、HSD17B 異常症といずれも希少疾患の話題でしたが、リンパ球ミトコンドリア解析・NGS を用いた遺伝子解析・ステロイドプロファイリング・レポーターアッセイなどの細胞実験を用いて詳細な検討が行われて、臨床像から基礎研究へとつながる内容をご発表いただきました。日常臨床から、最新の技術を用いて解析を行うことにより病態解明に至り、さらには論文化につなげる姿勢は、若い医師にも良き刺激となるものでした。昨年同様に今回も、佐々木会長のご高配により本セッションを指定講演にいただき、多くの方にご参加いただきました。今回 google form を使用したアンケートでは、講演内容には満足された方が9割をこえました。この方法は、回答・集計が簡便だった半面回収率が悪い印象もあり、今後の課題と考えられました。

また、当支部は、来る2023年6月開催の第96回日本内分泌学会学術総会において JES We Can 企画の担当をさせていただくこととなり、その準備に取り掛かりました。同総会では、有馬会長の JES We Can への熱いご支援の表れですが、JES We Can 企画が2セッション行われます。臨床、基礎から気鋭の演者をと、協議しながら企画しました。多くの方のご参加をお願い申し上げます。



委員氏名：◎脇 昌子、赤羽貴美子、井上直子、高木潤子、東村博子、中嶋祥子、○山下美保、山本眞由美 協力委員：小杉理恵子、杉山摩利子、村上雅子

[近畿支部 第23回近畿支部学術集会]

開催日：2022年11月26日(土)

会場：奈良県コンベンションセンター

会長：高橋 裕教授(奈良県立医科大学 糖尿病・内分泌内科学)

企画：JES We Can 企画(男女共同参画推進企画)講演

講演タイトル：若手内分泌医師にも役立つ統計学へのアプローチ「観察研究のデータ解析」

演者：新谷 歩教授(大阪公立大学大学院医学研究科 医療統計学)

座長：藤本 美香(近畿大学メディカルサポートセンター)

道上 敏美(大阪母子医療センター 研究所 骨発育疾患研究部門)

2022年度の近畿支部学術集会は、高橋 裕会長のご英断により新型コロナウイルス感染症に対する感染防止対策を十分に講じたうえで現地開催となりました。今回の JES We Can 企画講演には、男女を問わず若手医師にも興味を持ってもらえるような企画と考え、統計学分野から大阪公立大学大学院の新谷 歩教授に現地でご講演をいただきました。男女共同参画や若手医師という括

りに留まらず、査読されている多くの論文のなかで「観察研究」における「データ解析」で誤解されやすく注意すべき点などを分かりやすくエネルギーシユにお話いただきました。JES We Canの趣旨をご理解いただき、企画講演をいただきました新谷 歩先生をはじめ、学会長の高橋 裕先生、事務局ご担当の岡田定規先生、関係各位に深謝申し上げます。



(新谷 歩先生と)



(Hybrid 会議)

委員氏名：◎浅原哲子、位田 忍、井上真由美、加藤純子、新谷光世、高橋路子、中島華子、増山律子、道上敏美 協力委員：○藤本美香、三浦晶子

【中国支部 第23回中国支部学術集会】

開催日：2022年9月3日(土)

会 場：オンライン開催

会 長：宗 友厚(川崎医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科学教室)

企 画：パネルディスカッション「内分泌疾患患者のトランジション(移行期医療)と診療科連携」:

JES We Can(男女共同参画推進委員会)・第23回日本内分泌学会中国支部学術集会共同企画
ディスカッサント:

川崎医科大学 病態代謝学 主任教授 松田 純子先生

演題名：「小児期発症代謝内分泌疾患のトランジションの重要性～自験例から考える～」

鳥取大学医学部 脳神経医科学講座 脳神経外科学分野 教授 黒崎 雅道先生

演題名：「とりだい病院における間脳下垂体疾患患者のトランジション(移行期医療)と診療科連携」

山口大学大学院医学系研究科 泌尿器科学講座 准教授 白石 晃司先生

演題名：「男性性腺疾患における移行期医療」

産婦人科：島根大学 折出 亜希先生

演題名：「女性性腺疾患における移行期医療」

座長：広島大学病院 小児科 香川 礼子

岡山大学大学院医歯薬学総合研究域くらしき総合診療医学教育講座 三好 智子

今回の大会テーマである「Return to clinical endocrinology」の中で、内分泌疾患患者の小児から成人へのトランジション(移行期医療)や診療科連携は、複数の診療科が関わるため、我々医師や医療チームの信頼関係や日常におけるコミュニケーションがとても重要となります。また、患者中心の医療を行う視点からは、ライフサイクルの中で小児から成人へと成長し、生殖機能に関わる重要な連携となります。

前半部分は、小児科から成人へのトランジション(移行期医療)について、川崎医科大学 松田純子先生にご講演頂きました。患者を送り出す側である小児科と細分化の進んでいる成人科とのシステムの違いなどの課題についてもお話頂きました。生殖機能に関連する男性性腺疾患におけるトランジション(移行期医療)については、山口大学泌尿器科講座 白石晃司先生に、女性性腺疾患におけるトランジション(移行期医療)については、島根大学産婦人科 折出亜希先生にご講演頂きました。性腺疾患を小児期から成人にいたる一連の繋がりとして、病態を理解する“Pediatric

Andrology”についてもお話頂きました。最後に、鳥取大学脳外科 黒崎雅道先生には、間脳下垂体疾患患者のトランジション(移行期医療)と診療科連携について、ご講演頂きました。

現地開催の予定でしたが、コロナ感染者数が増加してきたため、急遽、オンライン開催となりましたが、本企画が診療科の枠を超え、内分泌疾患を持つ患者さんの人生のQOLが向上することを期待しております。プログラム立ち上げから、オンライン開催の変更まで、大会長 宗友厚先生には多大なご協力を頂き、この場をお借りし深謝いたします。

委員氏名：◎◎三好智子、折出亜希、鞆嶋有紀

[四国支部 第22回四国支部学術集会]

開催日：2022年9月4日(日)

会場：WEB開催

会長：遠藤 逸朗(徳島大学大学院生体機能解析学分野/徳島大学病院 内分泌代謝内科)

企画：女性医師セミナー

講演タイトル：テストステロン低下を伴う病態と治療～LOH症候群の診療を中心に～

演者：明比 祐子(新古賀病院 糖尿病内分泌内科、徳島大学糖尿病臨床・研究開発センター)

座長：吉田 守美子(徳島大学大学院医歯薬研究部 血液・内分泌代謝内科学)

22回四国支部学術集会もWEB開催でしたので、女性医師セミナーもWEB開催となりました。この分野でご高名で、またご活躍されている明比先生に、2022年に発表された『男性の性腺機能低下症ガイドライン』の内容を含む最新の話題、テストステロン低下時の診断・治療における注意点などじっくりとわかりやすく教えていただくことができました。

毎年女性医師セミナーでは、女性を中心とした様々な講師の先生方に非常に勉強になる講演をいただくことができ感謝しております。このように女性医師セミナーの開催にご尽力くださる学会長の先生、支部長の松浦文三先生並びに四国支部の先生方、関係各位に深謝申し上げます。

現在委員2名での活動となっておりますが、基礎研究者を含めた委員を増やし、活動を活発化したいと考えております。これからも活動に尽力して参りますので支部の先生方にはご指導並びにご協力をお願い申し上げます。

委員氏名：◎◎井町仁美、吉田守美子

[九州支部]

①第22回九州支部学術集会

開催日：2022年9月3日(土)

会場：熊本城ホール

会長：荒木 栄一(熊本大学大学院生命科学研究部 代謝内科学 教授)

企画：第7回JES We Can九州支部賞・受賞講演

演題1：Relationship between blood glucose variability in ambulatory glucose profile and standardized continuous glucose monitoring metrics: Subanalysis of a prospective cohort study.

得津 明美(産業医科大学 第1内科学講座、株式会社 吉積労働衛生コンサルタント事務所)

演題2：An Open-label Phase I/IIa Clinical Trial of 11 β -HSD1 Inhibitor for Cushing's Syndrome and Autonomous Cortisol Secretion.

織田 聡子(九州大学大学院医学研究院 病態制御内科学(第三内科))

演題3：Preoperative detection of the TERT promoter mutations in papillary thyroid carcinomas

中尾 朋恵(佐世保市総合医療センター)

座長：山本 幸代(産業医科大学医学部 医学教育担当教員/小児科)

②第 95 回日本内分泌学会学術総会

開催日：2022 年 6 月 2 日(木)～4 日(土)

会 場：別府コンベンションセンター

会 長：柴田 洋孝(大分大学医学部 内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学 教授)

企 画：JES We Can 企画 101 年目の proposal：インスリンの基礎研究から臨床研究
6 月 3 日(金)16:50～18:20

演題 1：妊婦の体格と母児の世代を超えたリスク管理

的場 ゆか(独立行政法人国立病院機構 小倉医療センター 糖尿病・内分泌代謝内科)

演題 2：小児の超高度肥満の臨床的背景と治療介入の効果

山本 幸代(産業医科大学 医学部 医学教育担当教員/産業医科大学 小児科)

演題 3：食物の性状により引き起こされる 2 型糖尿病モデル動物の解析

伊達 紫(宮崎大学 フロンティア科学総合研究センター)

演題 4：インスリン分泌現象の可視化と解析

高橋 倫子(北里大学 医学部 生理学)

座 長：三宅 育代(社会医療法人共愛会 戸畑共立病院 内分泌代謝内科)

花田 礼子(大分大学 医学部・神経生理学講座)

九州支部の 2022 年度の活動として上記①と②があげられます。

2022 年の九州地方会は久しぶりの現地開催となりました。対面で意見交換が可能である現地開催の形式は WEB 配信では得られない「活気」を直接感じることが出来る素晴らしい機会であると再認識いたしました。

地方会での優秀論文の選定は第 7 回目となり今回も上記 3 篇の論文が選出されました。受賞された 3 人の先生方の今後の活躍を期待いたします。この JES We Can 賞が九州支部の先生方の目標の 1 つになるように今後も多くの先生方とアイデアを出して作り上げていきたいと思っております。

もう一つの主な活動は上記②の内分泌総会での JES We Can 企画です。

第 95 回日本内分泌学会学術総会が大分大学の柴田洋孝先生の会長のもと、2022 年 6 月 2 日～4 日まで別府コンベンションセンター(B-Con Plaza)で開催されました。

九州での開催であり、JES We Can 企画は九州支部が担当を担うこととなりました。

九州支部の小委員会には大分大学の花田礼子先生が在籍されているため、柴田会長とも確認を取りつつまずセッションの軸となる高橋倫子先生(北里大学)をご推薦頂き、高橋先生の演題に肉付けしていく形で全体の構成を考えました。臨床 2 題、基礎 2 題のバランスとし高橋先生の講演をやや長めの時間配分といたしました。企画を検討するための会議は Zoom で行いました。コロナ禍で Zoom meeting が浸透していることが思いがけず功を奏しました。また大会を開催する大分大学の花田先生が JES We Can のメンバーであったことが大きな助けとなりました。

余談ですが、開催地の別府は素晴らしく素敵な土地であり会場の B-Con Plaza はアルゲリッチハウスに面しています。マルタ・アルゲリッチは 1994 年に別府を訪れた際、別府に魅せられ、毎年 5 月に「別府アルゲリッチ音楽祭」を開催、2023 年は第 23 回の音楽祭となります。世界中の著名な演奏家の演奏を聴けるだけでなく、若手演奏家の育成にも力を注いでいる音楽祭です。

この素敵な別府の土地で学術集会を開催していただき、JES We Can 企画に関してご指導いただきました柴田洋孝先生と委員長である山本眞由美先生に深謝いたします。

委員氏名：◎○三宅育代、馬越真希、佐藤 薫、柴田洋孝、伊達 紫、花田礼子、松田やよい、
的場ゆか、山本幸代